

秋田県三種町（みたねちょう）



町がイニシアティブを発揮し、地元事業者や幅広い関係者とも協力しながら、住民自らが「くらしの足」を「自分ごと」として考え、支える仕組みを町全体で構築。町内全域の交通空白地を解消するとともに、新たなコミュニティとしても機能し、利用者は着実に増加。

取組の概要

1. 多様な主体の実質的参画

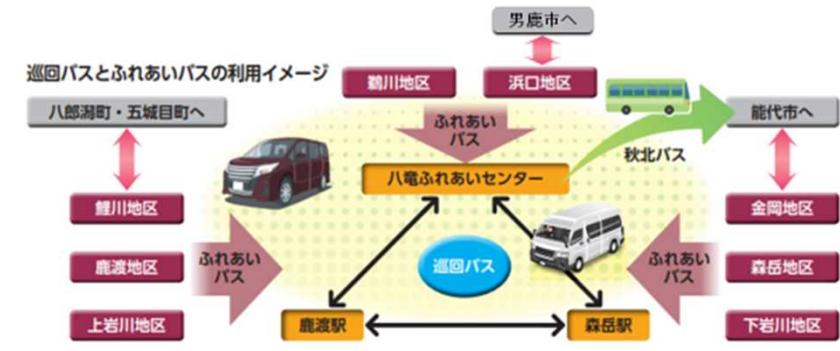
- 町内公共交通の再編に当たり、町の担当者が60件以上の個人・団体のところに足を運んで協力を呼びかけ、住民共助組織を立ち上げ。公共交通担当課では臨時で職員を増員し、教育・建設・商工観光・健康推進・福祉といった幅広い部局とも連携しながら、町内8地区での「ふれあいバス」、町内拠点を結ぶ「巡回バス」の実証運行の取組を主導。運行に当たり、乗車しきれない利用者が出た場合等には、必要な講習を受けた支所職員が臨時で予備車両を運転する形で協力。
- 検討初期から町が既存事業者と何度も丁寧に相談・協議を重ねたことで、事業者も理解・協力。加えて、道の駅や温泉施設はバス利用によるポイント加算、商業施設は駐車場所確保や待機場所の提供、病院は帰りのバスの時間に合わせた診察の順番調整等の協力。

2. 創意工夫

- ふれあいバス・巡回バスは住民共助組織（7団体）と地元タクシー事業者（2社）が自家用有償旅客運送により運行。バス事業者は既存4路線を1路線に集約。地域の輸送資源を最大限活用して町全域で交通再編に取り組み、町内集落の3割程度あった交通空白地を100%解消。
- 全戸配布する時刻表にはJRや民間路線バスの情報についても包括的に掲載し、乗継利便性を考慮したダイヤを構築。住民ニーズに対応するため、隣接市町にも一部乗り入れ。
- 町の広報誌の中で、交通再編の内容、住民共助組織・ドライバーの紹介、利用者の声、おでかけのモデルプラン、町長・副町長の乗車体験記等、様々な情報を住民に提供し利用を促進。

3. 自立性・継続性

- 住民共助組織の立ち上げ後は、各組織が自ら担い手・ドライバーを募る体制とし、住民組織の自主性を尊重。各組織における会議のほか、旧町単位や全地区での連絡会等、複数の階層で利用者の声を確認し、ダイヤやルートを随時見直し（2年間の実証運行中に4回の時刻表改正）。
- タクシー事業者への運行委託により経営安定化に寄与。地域課題解決への貢献により乗務員の意識も向上し、プロの目線で他地区も含めた時刻表調整や安全確保について助言。バス事業者についても乗客の集約や経費削減、重要路線への経営資源の集中等のメリット。
- ドライバーの親切で丁寧な対応が利用者から評判であり、地域住民のコミュニティとしても機能。コロナ禍にあっても利用者は着実に増加しており、通院や買物利用のほか、グループでの温泉利用者が増加するなど、地域の活性化・にぎわいの創出にも貢献。



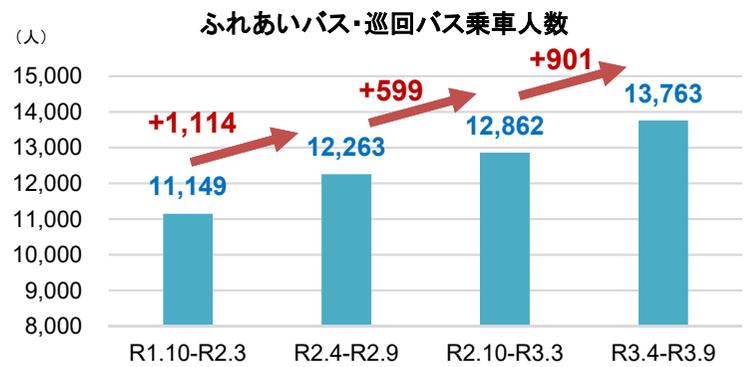
住民主体で「くらしの足」を作り上げる仕組みを構築



町の広報誌に掲載された「みたねバスだより」

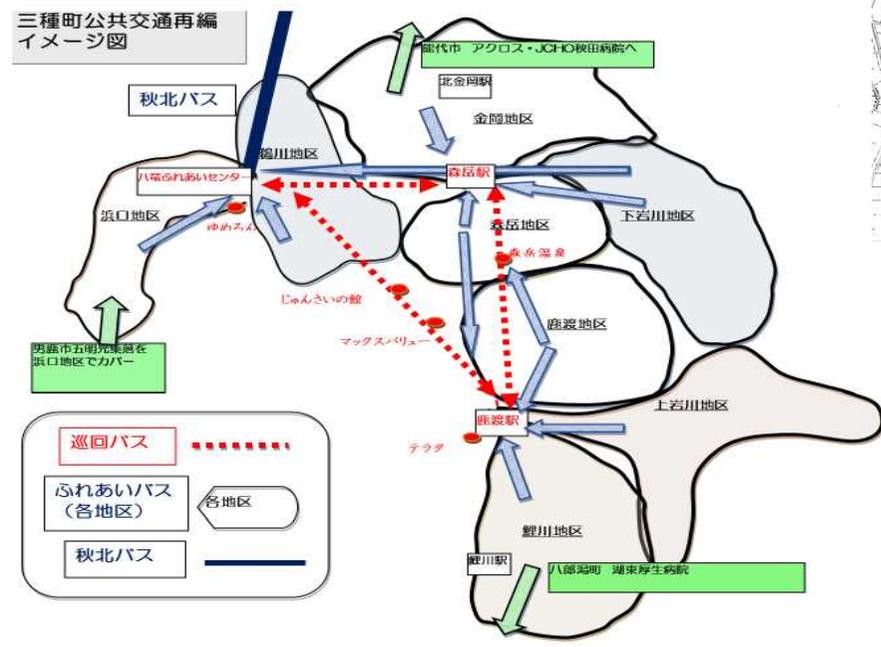
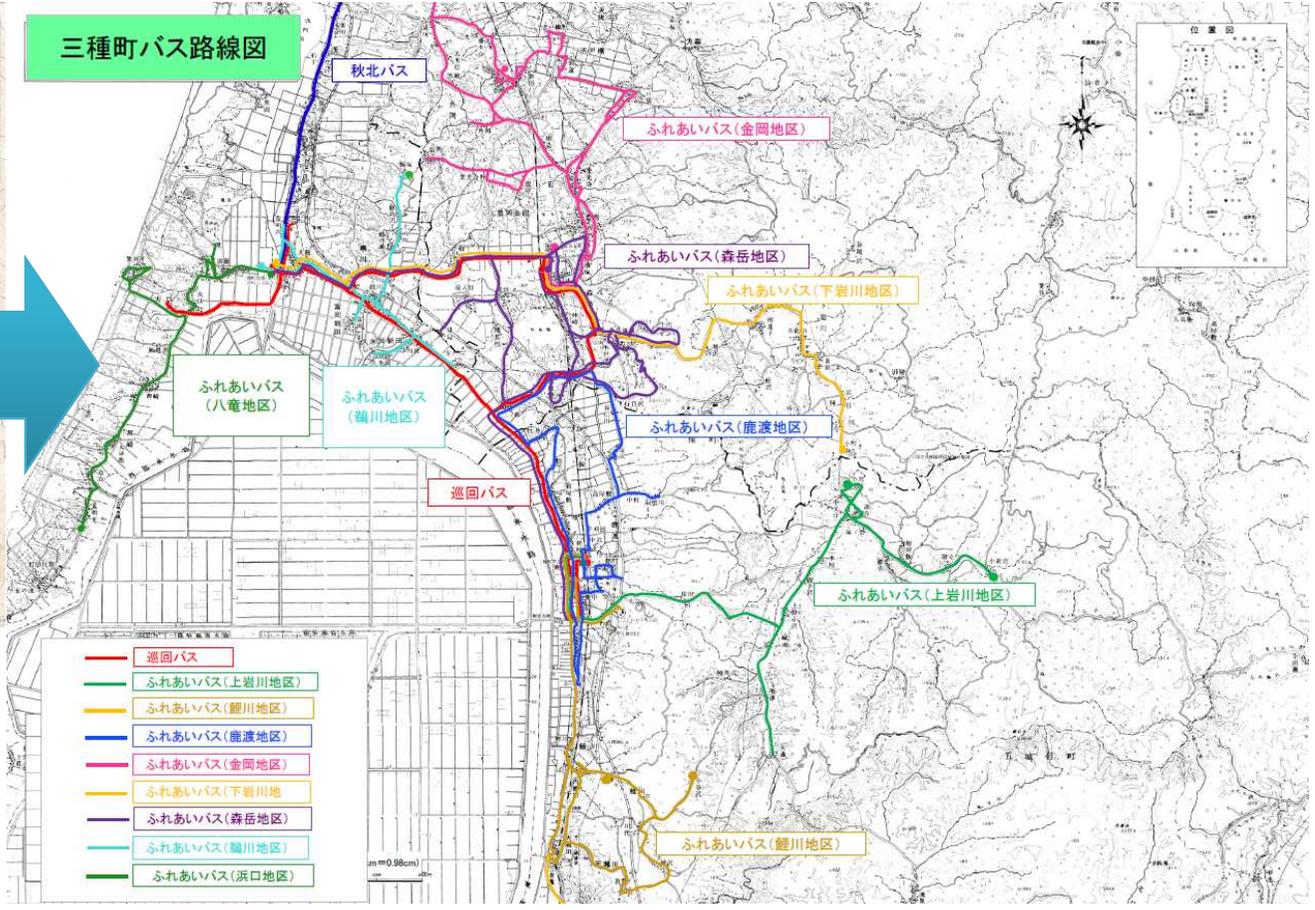
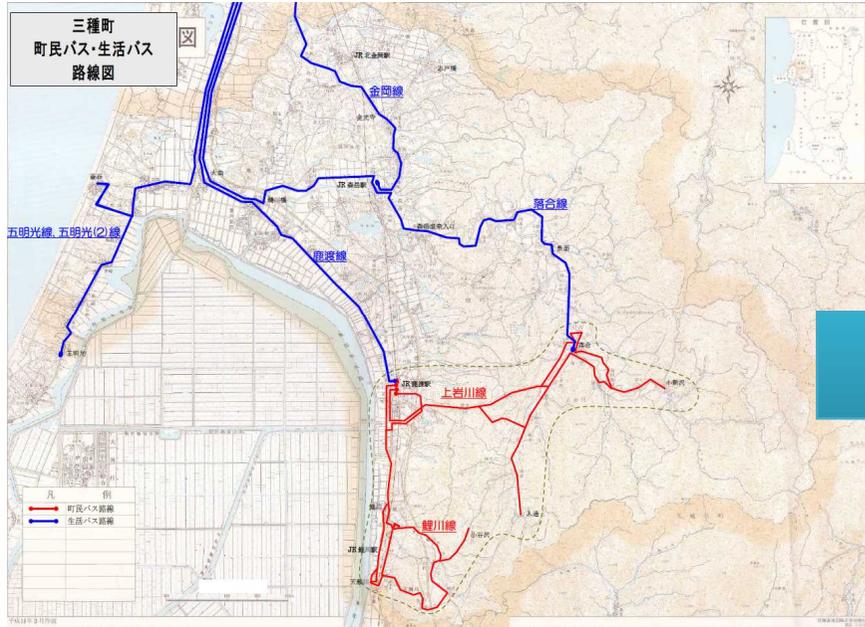


「バスに乗って、運転手や乗り合わせた人と話すのが楽しい」との声も



秋田県三種町 (みたねちょう)

参考: 三種町における公共交通再編



菟野町地域公共交通会議(三重県三重郡菟野町)

- ・町内交通の活性化のため、だれでも簡単に操作できるMaaSシステム(「おでかけこもの」)を導入。
- ・通信事業者や職員の地道な周知活動により、デマンド交通利用者とWeb予約率が大幅に拡大。
- ・MaaSシステムを安心・安全利用の向上、観光促進にも繋げ、中山間地型MaaS導入モデルを確立。



(取組の概要)

1. 多様な主体の実質的参画

- ・再編した町内公共交通ネットワークの活性化のため、だれでも簡単に操作できる**公共交通の検索・予約・決済一元化システム「おでかけこもの」**を開発(国交省補助)し、現在では補助から卒業し社会実装。システムを共同開発した大手通信事業者傘下の携帯電話販売店との協働により、町民向けにシステムの使い方を説明する出前講座を実施。
- ・町職員自身も地域自治会や老人クラブと連携し、スポーツや生涯学習活動、イベントに出張し、「おでかけこもの」を説明する場を設ける等、構築したMaaSシステムの**地道な普及活動を継続**。
- ・「おでかけこもの」は令和4年度の機能改修として、観光協会が行う**貸出用超小型モビリティの予約・決済機能**(実証実験中)を予定しており、生活・観光両分野でより充実した移動サービスの提供を目指す。



▲「おでかけこもの」



▲スマートフォン講座



▲町内公共交通ネットワーク概略図

2. 創意工夫

- ・利用の比較的少ないエリアの定時定路線を**デマンド交通(「のりあいタクシー」)**に置き換え、幹線である**通学・通勤バス**等を増便する町内公共交通の再編を実施。コロナの影響により令和2年度で利用者数は下落したものの、コミュニティ交通全体では**令和3年度利用者は前年度を維持**、登校時間を意識したダイヤ調整を行った**通勤通学バスは新規利用者を獲得し増加**。
- ・車両のラッピングデザインを地元高校生から公募したほか、バス利用の付加価値を高めるために車内Wi-FiやUSBコンセントを全国でも先駆的に導入し、高校生や若年層の利用を喚起。
- ・「おでかけこもの」ではバスロケーション情報と併せて**車内混雑状況を提供**。また、バスで通学している小学生の乗降確認を保護者へメール通知する**「子どもみまもりシステム」**の検証を行い、安心・安全に公共交通を利用できる環境整備に取り組む。



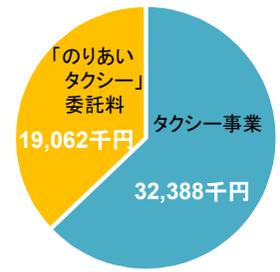
▲コミュニティバス車両



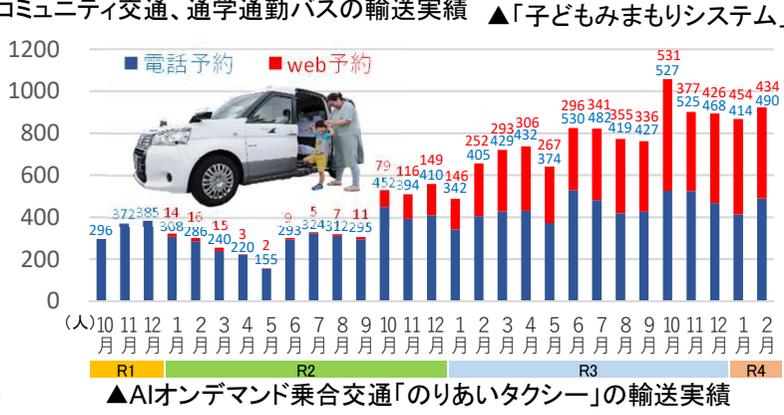
▲「子どもみまもりシステム」

3. 自立性・継続性

- ・「のりあいタクシー」は「おでかけこもの」導入後に大きく利用を伸ばし令和3年10月には1000人を突破。また双方の認知度も普及活動や口コミにより向上し、「のりあいタクシー」の**Web予約率は定常的に40%を超えるまでに浸透**。
- ・「のりあいタクシー」の委託料は受託タクシー事業者の**運送収入の約5分の2**を占め、コロナや構造的要因による減収の一部を補填する収入源となっており、地方の交通事業者のビジネスモデルのあり方にも重要な示唆。



▲受託タクシー事業者の収入内訳(令和2年度)



▲AIオンデマンド乗合交通「のりあいタクシー」の輸送実績

菰野町地域公共交通会議(三重県三重郡菰野町)

参考: 菰野町地域公共交通会議に係る路線図

鉄道



近畿日本鉄道(株) 湯の山線

コミュニティバス(かもしかバス)



1 神森福王山線
日中バス

2 千種根の平線
日中バス

3 小島永井線
日中バス

6 潤田福王山線
通勤・通学バス

7 竹永小島線
通勤・通学バス

9 神森菰野線
通学バス

10 湯の山神明線
(有限会社 尾高)
【タクシー型車両で運行】

御在所ロープウェイ(株)



鶯川原川北線
日中バス

平成30年12月より休止

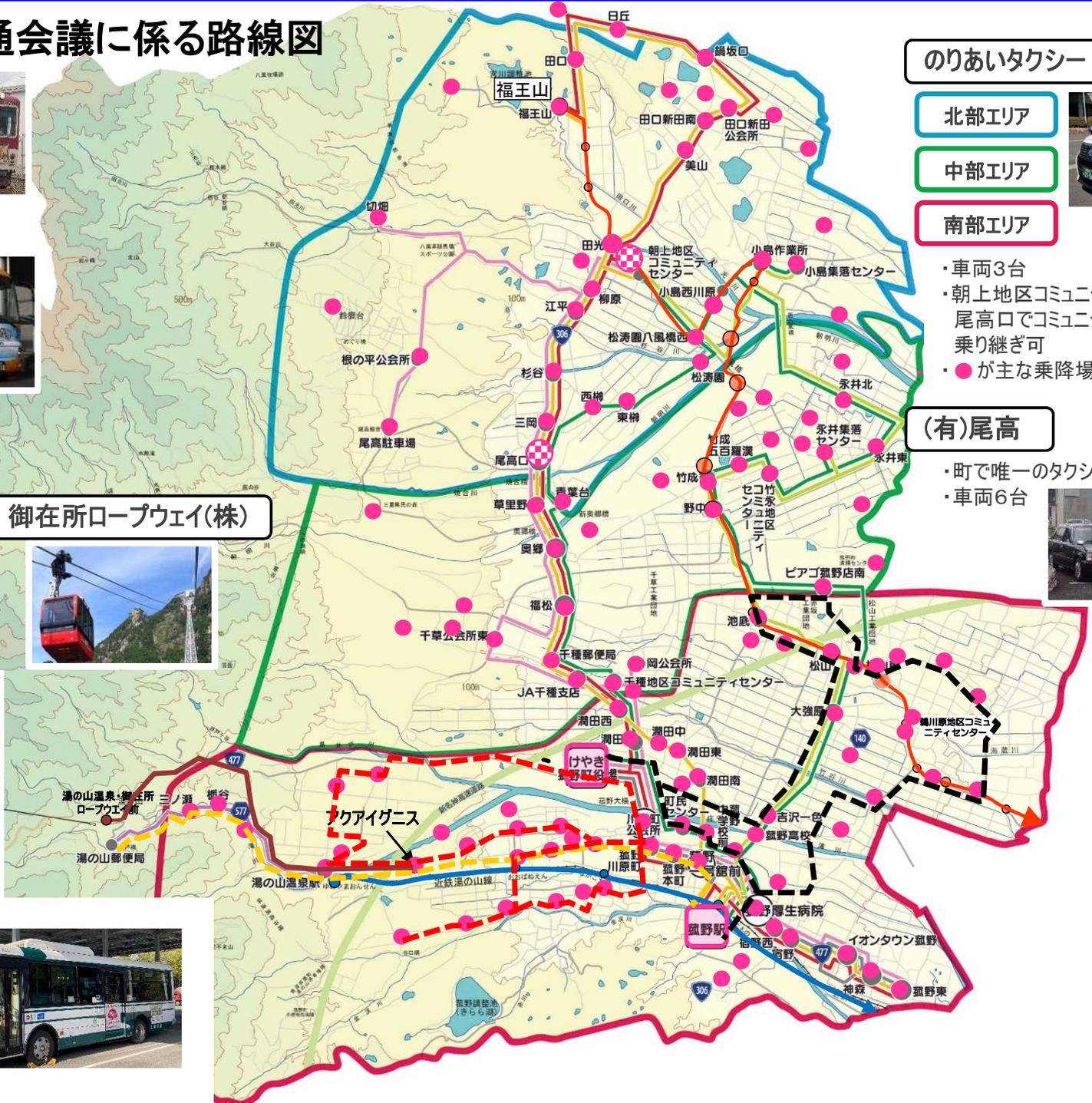
茶屋の上大羽線
日中バス

片倉菰野線 ... 令和2年10月より
通勤・通学バス 「湯の山神明線」に代替

三重交通(株)路線バス

三重交通(株) 四日市福王山線

三重交通(株) 湯の山線



のりあいタクシー

北部エリア

中部エリア

南部エリア



- ・車両3台
- ・朝上地区コミュニティセンター、尾高口でコミュニティバスと乗り継ぎ可
- ・●が主な乗降場所

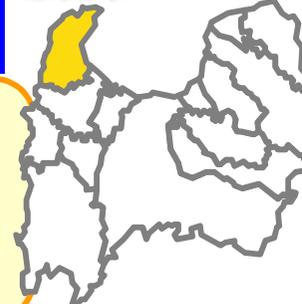
(有)尾高

- ・町で唯一のタクシー事業者
- ・車両6台



氷見市、特定非営利活動法人八代地域活性化協議会、特定非営利活動法人余川谷地域活性化協議会、特定非営利活動法人上庄谷地域協議会 (富山県氷見市)

氷見市



- ✓ 市営、民間バスの撤退を機として、地域住民を会員とする3つのNPO法人による住民主体バスが市内全域で生活交通として機能。
- ✓ 稼ぐインセンティブ付与等の行政による制度的工夫、安定的な収入確保のための住民による工夫等の官民協働による取組みを通じ、最長16年の長期にわたり、必要不可欠なバス路線を安定的に維持することを実現。

(取組の概要)

1. 多様な主体の実質的参画

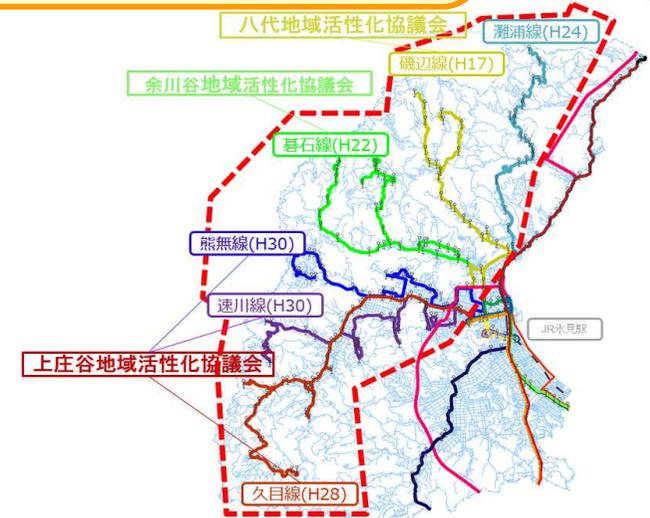
- 市が主導的な役割を果たし、住民主体バスの設立に尽力。
- 設立後は、運行費等の補助による関与や助言等の関与を継続しつつも、法人の自主性を尊重することで住民の積極的な関与を促進し、マイバス意識を向上。
- 法人としても、協議会等で住民ニーズを聴取し、各地域のニーズに応じた運賃設定等自主的な工夫や運営。
- 法人間でも行政を交えた連絡協議会を定期的に開催し、それぞれの法人の課題共有等を実施。

2. 創意工夫

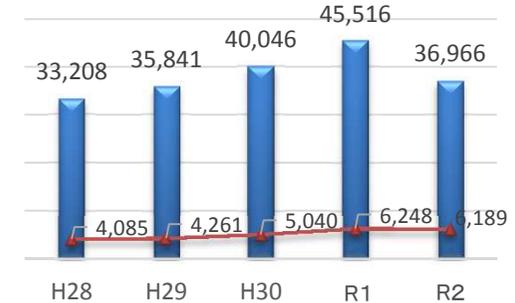
- 行政として、廃止代替に際し、地域住民のニーズに応じた運行形態の提案等を行うとともに、運行コスト・住民負担等の案を示すなどによりコスト意識・負担に対する受容性等を醸成。
- 運行経費の4～5割を自ら確保することを補助金支出の要件とすることで、法人が稼ぐインセンティブを付与する等の制度的工夫。
- 法人では、高齢者への生活支援やパトロール、学校でのMMなど、様々行う日々の事業の中で住民の生のニーズを把握。
- その上で、例えば、免許返納の意向を有する高齢者に対して、返納手続のサポートをするとともにNPOバスの利用を案内する等により、新規利用者を獲得する工夫。

3. 自立性・継続性

- 法人として、世帯一律の費用負担(2,000円/戸)等の住民負担や、事業所付近にバス停を設ける等の工夫を通じた賛助会員の獲得により、一定額を安定的に確保。
- 商店の看板設置等のPR活動、住民の家屋修理、パトロール活動、防災のためのヘリポート設置等地域のための様々な活動を無償で実施。こうした活動については、総務大臣表彰「ふるさとまちづくり大賞」、消防庁長官「防災まちづくり大賞」等の実績。
- 様々な活動を通じて法人に対する安心感や信頼感等の醸成を図るとともに、バス事業を含む法人トータルの価値を向上することで、バス事業に対する負担についても理解を得ている。
- 官民の協働/役割分担により、最長16年にわたり運行が継続され、市内他地域にも横展開。



NPOバスの利用者数(人)、運行回数/年



総務大臣表彰「ふるさとまちづくり大賞」



平成27年度ふるさとづくり大賞 団体賞 (総務大臣賞) 受賞

熊無線 (H30) 運行開始



氷見市内の地域公共交通の現況図

氷見市内全バス路線図

■■■■■■■■■■ 表彰対象路線

参考:路線図・位置図

八代地域活性化協議会

余川谷地域活性化協議会

碓氷線(H17)

灘浦線(H24)

わくライナー

脇



フィーダー系統
【市街地周遊バス】
JR氷見駅等にて、NPOバス、
広域交通ネットワークに接続

JR氷見駅

富山ぶりにかにバス

伏木經由氷見
高岡ふしき病院經由氷見

脇
守山經由氷見
新高岡守山經由氷見

熊無線(H30)

速川線(H30)

上庄谷地域活性化協議会

久目線(H28)

仏生寺

わくライナー

神姫バス(株)・兵庫六甲農業協同組合・三田市



路線の維持に苦しむ神姫バス(株)と、農産物の輸送手段確保に悩む兵庫六甲農業協同組合及び生産者が路線バスで農産物を運送する貨客混載を実施し、地元の三田市もサポート。バス路線活性化とともに、農産物の輸送手段確保による農家の農業再開等、地域全体の活性化にも寄与。

(取組の概要)

1. 多様な主体の実質的参画

- ・地元の交通事業者である神姫バス(株)が農産物の直売所を営んでいる兵庫六甲農業協同組合(以下、JA兵庫六甲)に提案して実現。地域住民である生産者とも協議を重ね、令和3年1月から実証運行、同年5月から本格運行を開始。
- ・生産者は高齢である一方、農産物出荷のために直売所まで片道約10キロを20分かけ自家用車や路線バスで往復しなければならず、出荷作業が困難となっていた農家もあった。この取組のおかげで、「生産技術や作る意思はあるものの、出荷作業が困難な生産者は多い。こんなに嬉しいことはない。」「年をとって運ぶのが大変なので野菜作りをやめていたが、バスで運んでもらえるなら、また作り始めた。」といった声が挙がっており、地域住民のなりわいや生きがいを生み出している。
- ・地元の三田市も積極的に協力しており、生産物の収穫と貨客混載を体験できるプログラムを主催した。また、地元の小学校による体験学習も検討しており、地元が一体となって貨客混載を支えている。

2. 創意工夫

- ・対象の「三田～小柿」線は通学需要のため朝夕は乗客が多いが、昼は乗客が少なく空席が目立っていた。一方で、JA兵庫六甲の直売所は、午後から品薄となっていたため、農産物を受け入れたいと思っており、両者のニーズがマッチした。
- ・また、出荷困難となっていた農家が農業を再開(少なくとも3件)するなど、生産者も喜ぶとともに、農産物の購入者もいつでも新鮮な農産物を購入できるということで好評となっている。行政としても赤字路線の補助額が減少。まさに「1石5鳥」の取組となっている。
- ・350kg未満の許可不要の形態で貨客混載を実施。また、①バス運転手はコンテナの積み下ろしを実施しないこと、②乗客を終点の三田駅前で降ろした後、回送で直売所まで届けること、③起点となる停留所にJA兵庫六甲の支店があり、時間に余裕を持って積み込みをすることが可能であることから、バスの運行に支障なく安全に取組を行っている。
- ・地域の路線バスを活用して貨客混載を本格実施した全国的にも珍しい、先がけとも言える取組であり、多くのメディアに取り上げられることで、宣伝となって人を呼び込むとともに、生産者にも励みとなった。

3. 自立性・継続性

- ・毎週火・金曜日に貨客混載を実施。運行便当たり増加人員に換算すると2.78人増(約1,500円増)となっている(令和3年1月～令和4年1月実績)。
- ・貨客混載の取組が順調に進んでいるため、同じ路線の別地域においても10月から貨客混載の取組を開始(毎週月曜日に実施)。
- ・今回の取組を皮切りに、兵庫県内の他路線(6地域)において、地域の名産品を貨客混載で輸送し、地域経済活性化に貢献。利用者がバスを認知する機会を生み、利用を促すこともねらっている。



バス停から販売所まで輸送



集荷の様子



車内の様子



直売所での販売風景

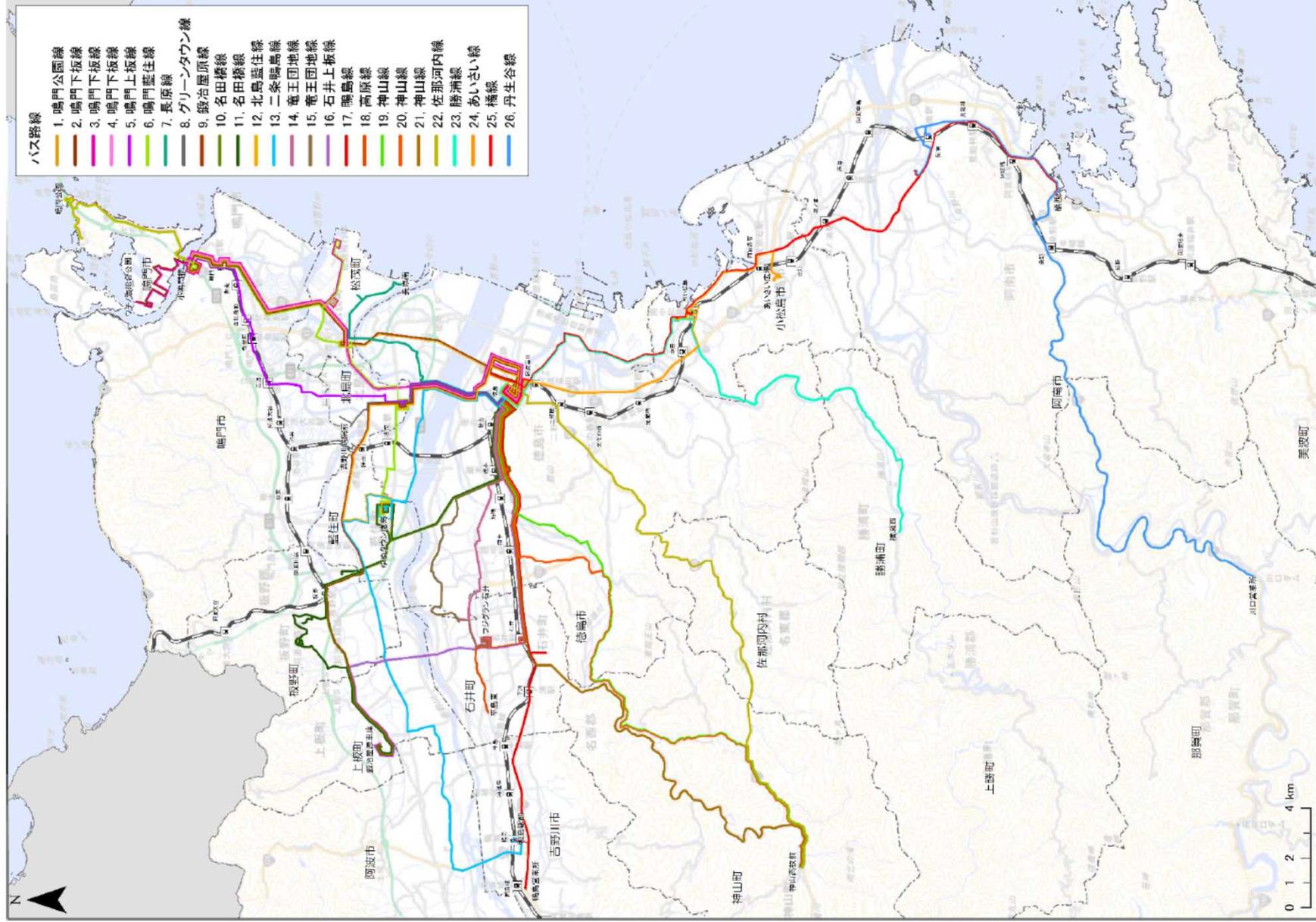
貨客混載対象路線（神姫バス（株）・兵庫六甲農業協同組合・三田市）

神姫バス路線「三田～小柿」線



徳島県・四国旅客鉄道(株)・徳島バス(株)

路線図・位置図



共同経営推進室(熊本県熊本市)

・熊本市を運行する**乗合バス5社**による**独禁法特例法**を活用し、**全国で初めて共同経営協定を締結(大臣認可)**。重複する4方面の路線の**路線移譲・協調運行**による**需給バランスの調整**、**待ち時間の平準化**を行い、**収支改善**や**利用者の利便向上**へ寄与。効率化により**捻出された輸送資源で輸送量を拡大**。



(取組の概要)

1. 多様な主体の実質的参画

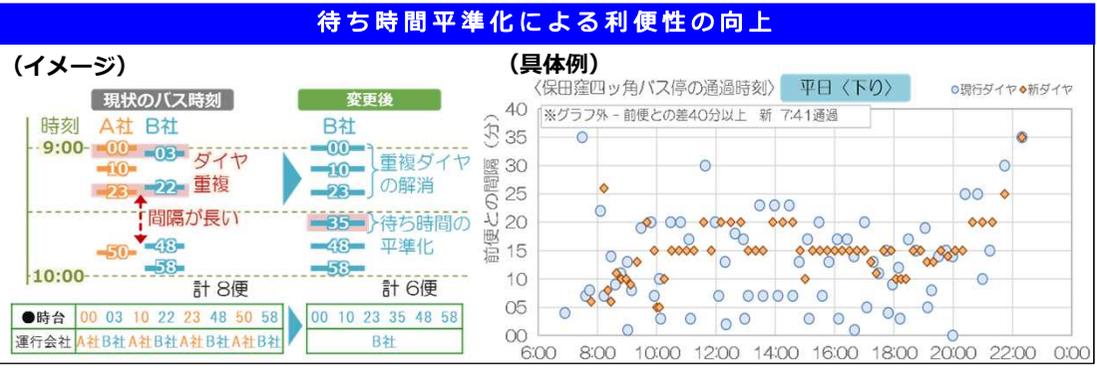
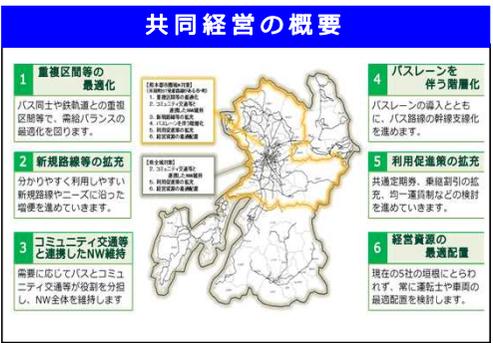
- ・令和2年4月1日に乗合バス事業者5社(九州産交バス(株)・産交バス(株)・熊本電気鉄道(株)・熊本バス(株)・熊本都市バス(株))にて「**共同経営準備室(令和3年3月25日より共同経営推進室へと改称)**」として**組織化**(各社から社員を常勤にて派遣)。**月一度**、各社社長級の会議や熊本県、熊本市等を含めた**部長会議**をそれぞれ行うこととし、関係者全員で合意形成を行う体制を構築。
- ・**路線バスに関するデータを公表・共有**することにより、住民や利用者の共同経営に対する理解を得ることに成功(賛同する61.3%、賛同しない2.7%、分からない36.0%)。

2. 創意工夫

- ・各社の重複して運行している4方面のバス路線を対象としてサービス水準を概ね維持しつつ、**路線の移譲、協調運行を通して需給バランスの調整**を行うことにより、**運行の効率化**を達成。収支改善に貢献。
- ・ダイヤが重複し、だんご状態になっていた区間を、**等間隔運行により待ち時間を平準化**。併せて、従前は1系統に複数社が運行していたため、定期券保有者は当該定期券に係るバス会社が運行するバスにしか乗車できなかったが、共同経営実施により1系統1社の運行になったことで、**当該系統の全ての便に乗れる**ようになり、**利便性が向上**。

3. 自立性・継続性

- ・共同経営により、事業全体で**年間約3,100万円、運転手+5.6人/日、車両+4.7台/日の改善効果**を見込む。
- ・**利用者の減少幅、総走行キロの削減割合で効率化を達成**。効率化により**捻出された輸送資源**(運転手、車両)により、**運転手の労働環境改善**を行うとともに、新たに開発された熊本駅周辺の新規交通需要に応じた**バスの増便**(179→215便)が可能となった。
- ・今後の更なる効率化と利便性向上のため、**共通定期券の準備**(令和4年4月開始)や**熊本市電(軌道)と連携したサービスの検討**を行っている。



共同経営推進室(熊本県熊本市)

参考:共同経営計画にて効率化された区間の位置図

